

使えるシリーズ案

使えるライティング、使えるデザイン思考、使える心理学と、マネタイズセミナー受講者の方は無料で招待した使えるシリーズも、5月からは普通の有料講座として開催されることとなります。

引き続き受講して勉強したいという場合は是非ご参加ください。

一応、今後どういうテーマで話すことを考えているか、サンプルをいくつか載せます。

もちろんこれは決定でもなんでもありません。

例えば、こういうテーマで話をする事ができるし、話してみたいと思っていますよ、というものの一部です。

これまでの3回でも、「使えるデザイン思考」なるものがねじ込まれたように、実際には受講者の方たちとのやり取りを通してテーマは決められていきます。

ですので、あくまでも「参考程度」に目を通していただければと思います。

僕が話すのだから、どんな突拍子もないテーマに見えても、必ず人生において大いに「使える」ものになりますので。

セミナー自体は月1回行い、価格は一回あたり5万円（ビデオ受講の場合は4万円）で、12月までの8回分まとめてお申し込みの場合は30万円（ビデオ受講の場合は25万円）です。

一括でお申し込みの方にはもちろん **Exclusive**（＝他では得られない）なコンテンツを用意します。

今のところ候補として考えているのは「木坂が語る〇〇」みたいなコンテンツ形式のものと、「木坂と考える〇〇」というワークショップ形式のものですが、この辺は受講者の方の希望を聞いて決めていきたいと思っています。

以下、セミナー案です。

使える経済学

経済学というのはそもそも「自分の利得を最大化するべく常に合理的にふるまうのが人間」という無茶苦茶な前提で打ちたてられているために、どうしても「机上の空論」になりがちであって、そのくせ数学がゴリゴリに出てきて何とも学習意欲がわかない分野でもある。

しかしながら、例えば価格決定のメカニズムとかサunkコストの概念、あるいは比較優位と絶対優位など、その経済学の基本的な考え方は非常に重要で、経済の枠を超えても「使える」部分が非常に多い(というより知らないと人として「使えない」と個人的には思う)。

そういう「経済学的世界の見方」を解説し、身に着け、この複雑に絡まった世界をより快適に泳いでもらうのが主眼のセミナーになると思う。

使えるプロモーション戦略

「プロモーション」と一口に言ってもいろいろあって、小さなプロモーションからマスプロモーション、ネットのプロモーションからアナログなプロモーション、ほぼ無料でできるプロモーションから多額の資金が必要なプロモーション、そして「使える」プロモーションから「使えない」プロモーションといった具合に、どういう形でその全体像を理解しているかが結構シビアに問われてくる。

プロモーションの場合は分かりやすく「売り上げ」という数字で結果が見えるため、言い訳は通用しない。狙った結果が出ないのなら、それは「どこかが間違っていた」ことを意味するだけだからだ。

このセミナーでは、しょもないテクニックに終始するのではなく、そういうシビアな(=結果主義的な)世界をどうやって快適に生きていくか、「一発で10億円売り上げました」とか「気が付いたら億万長者になれました」とか、そういう話すらも含んだ上で、どうやったらプロモーションを「武器」にできるのか、そういう話をしたいと思う。

使える学習法

実はいろんなところで学習法については話しているのだけれど、あらためて、木坂が考える「最適な」学習法を提示してみたい。

特に今回は、年齢別ということ視野に入れている。

つまり、小学校に上がるまではどうなのか、小学校はどうか、中学校は、あるいは大人は、老人は、という具合に、年齢によってできることできないことを根拠と共に明確にし、各年代において最もふさわしい学習法を提案できればと思っている。

人間は、年齢によって身体的にも心理的にも全く異なっているのだから、やるべきことも当然変わる。幼稚園から机に座らせてカントを読ませるのは、それが可能だったとしても、僕は賛成ではない。

このセミナーでは、英語を早い段階で触れさせるのか、まずは日本語をしっかりなのか、「受験勉強」はどの程度使えてどの程度使えないのか、大人は記憶力が落ちるのかそうではないのか、「天才」は作れるのか作れないのか、などの話をとっかかりとして、諸々の「具体的」指針を、根拠と共に提案することを目的としている。

もちろん、人間の能力は年齢だけで単純に決まるわけではない。

その人の能力を決めるのに複雑に影響し合う様々な要素も、できる限り踏まえていく。

使える脳科学

脳科学ほど、一般にトンデモな議論が盛んな領域もないのではないかと思う。

別に、右脳だ左脳だ、男脳だ女脳だ、そういうことを言っているのは自由なのだけれど、それらは「血液型占い」と同じ程度のものであるということをどれくらいの人が理解しているのか、個人的には怖い部分もある。

このセミナーでは、現在の脳科学の最先端は何をやっているのか、どこまでわかっててど

こからわかっていないのか、人間の能力や人生をどれくらい脳科学は解明できるのか、「能力開発」はどのようにして、またどれくらい可能なのか、脳と心の関係は、などの点について話してみたい。

使えるコミュニケーション

現代に要求される最重要スキルに挙げられることも多い「コミュニケーション力」ではあるけれど、果たしてどれだけの人が、その「核心」を理解し、また実践できているだろうか。

コミュニケーション力とは、決して「表面的に」人づきあいがうまくなることでも、人から好かれるテクニックをマスターしていることでもない。

「相手と相手の人生にどれだけの影響を与えることができるのか」

これを左右するのがコミュニケーション力である。

だから、僕は巷で言うコミュニケーション力はむしろない方だと思うが、しかし今述べた本当の意味でのコミュニケーション力は、一般の水準をはるかに超えるくらいはあると（勝手に）思っている。

巷のコミュニケーション本が「使えない」理由から、真のコミュニケーション力とは何かという話から、具体的にどうすれば「使える」コミュニケーション力が身につくのかという話まで、包括的にお話しできればと思う。

使えるプロファイリング

FBIなどがまず学ぶと言われているプロファイリング。

要するに人を第一印象で「限りなく正確に」そのパーソナリティを見抜いていく方法のことであるが、これは実はコツさえつかめば結構簡単なことである。

僕はコンサルや面談の際、初対面のクライアントが部屋に入ってきた瞬間にその人のパーソナリティを大体理解し、その人の性格からその人の悩みや目指したい方向までを大まかに見当をつけている。

だから、半歩先回りして話を聞くことができるし、先回りしたまま、話をすることができる。

つまり、自然と説得力が出るし、「この人は自分のことを分かっている」と思ってもらえる率が上がり、結果として（僕ではなく）クライアントの成果につながりやすくなる。

現在 NLP などを一生懸命やっている人には少し申し訳ないのだけど、このセミナーを通して、勝負の半分以上は、自己紹介の「前に」決まっているということ、分かってもらえたらと思う。

使える宗教学

「宗教」という言葉は世間ではかなり誤解されているし、学者でも正確に理解している人はほとんどいないが、「人間は全て宗教的である」というのが実は最も正確な物言いである。

以前にスピリチュアルのセミナーを開催したことがあってそこでもだいぶ話したけれども、宗教的でない人間は存在しない（「宗教なんて…」と思っている人ほど実は宗教的である）。

つまり、人間を理解したければ本当の意味での宗教を理解しなければならないし、人間に影響力を持ちたければ、必要なのは返報性の原理ではなくその人の宗教的な部分（＝根源的な部分）へどれだけ訴えかけるかに依存してくるということだ。

人間の心を徹底的に追求したユングが、最終的にオカルトに走っていったのは偶然ではない。

ノーベル賞を取るような理系の学者が晩年神秘主義に走るのも例外ではない。

怪しい新興宗教に優秀な人も含めて大量に信者が入信するのも、偶然ではなく全てデザインされた事柄である（「洗脳」の最も根本的な原理でもある）。

そういった諸々の観点から、「宗教」がいかに関「現実的」なものであつて、いかに関「使える」ものであるか、それをこのセミナーでお伝えできればと思う。

使える政治（哲）学

日本の政治の状況にげんがりしている人は少なくないと思うが、なぜこんな誰が見ても「愚かな」政治が続くのか、どうして政治家は例外なくバカなのか、どうして官僚は自己保身しか考えないのか、どうして利権は消えないのか、どうしてしょーもない制度や法律ばかりが残るのか、そういう話を包括的にしたいのが一点。

もう一点、「どうして大衆はバカなのか」という方向からも話をしたいと思う。

大衆はバカなのか、それともバカになるのか。

民主制においては、バカな政治家がいるのは国民がバカな証拠であつて、それをプラトンは2000年以上も前に「民主制は衆愚政治に墮落する」として警鐘を鳴らしたが、結局我々はプラトンが予想した通りの、「愚かな」政治を甘んじて受けている。

今読んでも驚くほど、プラトンが描写した通りの世界が、現代の日本である。

政治学、あるいは政治哲学は、「人間は政治的な動物である」と言つたアリストテレスの言葉が正しいとするならば、人間の「根本」を探究する学問の一つである。

「根本」に迫る知恵は例外なく「使える」と僕は思っているが、唯一難点なのが「分かりにくくて眠い」本が多すぎるということ。

このセミナーでは、九九のように万人に分かりやすいとまでは言えないかもしれないけれど、少なくとも愉しく、またハッとするような人間の深淵を垣間見せられればと思つている。

使える認識論

「認識論」とは哲学の一分野だが、要するに「人間って、どうやって世界を認識しているの？」ということをひたすら考えていく学問のことである。

これには歴史上いろんな説があり、すべてを完璧にカバーしようと思うとそれこそ40年くらいかかってしまうのだが、要点だけ掴めば、そんなに複雑な議論がされているわけではない。

このセミナーでは、歴史的に古今東西世界中の天才たちが「人間の認識」や「人間の心」についてどう考えてきたのか、それを最新の「認知科学」と照らし合わせながら学んでいけるようなコンテンツを提供できればと思っている。

「脳科学」の話と強い関連が生じるとは思うが、いずれにせよ、いかに「哲学者」たちが「現実的な」ことを議論していて、またそれがいかに「日々の生活で使える」ものであるか、その一部でもお見せできればと思う。

使える進化学

進化学と言っても、幸か不幸か、ダーウィンをみんなで読みましょうという硬派なセミナーではない。

そういう生物としての進化の話も踏まえながら、「我々が」いかに進化していくのか、またそのスピードをいかにして上げていくのか、そういう極めて大きなテーマについてお話しできればと思う。

これまでもメルマガなどで「淘汰圧をかけろ」とか「異種間で交流しろ」とかいろんな指針は提示しているけれど、さらに突っ込んでお話しすることになるかと。

自分の進化に「停滞」を感じている人はターニングポイントになるはずである。

使えるコトラー・ドラッカー

コトラーやドラッカーはもはや「古典」であって、あくまでも「教科書」であるから、一般には「大層使いにくい」代物である。

学者特有の持って回ったような言い回しが多いし、具体的なノウハウや指針があるわけでもない。

「So what? (だからどうすればいいのだ?)」と聞きたくなるような論文ばかりである。

しかし、当然だけでも彼らの書いた本には、マーケティングやマネジメントに関して驚くべき知恵が隠されている。

それを読み解ける人はとくに「使って」大成功しているはずであるが、そういう能力を持つ人は（例えばユニクロの柳井さんや星野リゾートの星野さんなど）ごく一部に限られるのが現実である。

僕が代わりに、と言ってしまっただけは傲慢かもしれないけれど、僕なりにコトラーとドラッカーを再構築して「使える」形としてお話ししたいのがこのセミナーになる。

ちなみに、彼らは生涯で膨大な著作を残したけれど、僕は（書籍化されているものは）その「すべて」を読んでいると思う。

「全体」を知っているからこそ見えてくる「宝」が彼らの本には隠されている。

そういうものを中心に、セミナーを組み立てていく予定である。

使えるシュンペーター・ケインズ・ハイエク

シュンペーターは「使えるデザイン思考」でもお話ししたと思うが、イノベーションと言う概念を理解する上では避けては通れない。

その意味でシュンペーターというのは、経済学者としてはかなり異色である（イノベーシ

ジョンなど、本来経済学の範疇ではない) と同時に、現在の日本、これからの世界に欠かすことのできない人物の一人である。

にもかかわらず現在ではほとんど忘れ去られてしまった人となっている(現在主流の「数学ゴリゴリの経済学」を行わなかったためだろう)。

ケインズもまずほとんど誰もその著作を読んでおらず(読んでも理解できず)名前だけが独り歩きしている人物であるし、ハイエクなど知っている人の方が少ないのではないか。

しかしケインズは(いまだに)現在のマクロ政策に大きな影響を与え続けているし、ハイエクは誰よりも早くインターネットの可能性について哲学的かつ経済学的な議論をし、今流行の行動経済学的な発想を経済学に持ち込んだ人物として、再評価されてしかるべきである。

「使える」形で彼らを再構築してお渡しできればと思う。

使えるリーダーシップ

「リーダーシップ」と聞いて「自分はリーダーじゃないから別に関係ないか」と思ってしまふ人は時代感覚がゼロであると同時に、僕のセミナーを真面目に受けていない人である。

これからは、「万人が」リーダーになる時代であり、それを僕は数年前から「人類総アーティスト時代」と表現してきた。

誰もが、どこかのコミュニティのリーダーにならなくてはいけない。

いや、誰もが「自らコミュニティを作り、リーダーとして皆を引っ張っていけない時代」なのである。

「引っ張っていきたくないよ面倒くさいし」と言うのであればそれはそれでいいのだけど、その先に待っているのは滝壺だということを、マネタイズセミナーなどで是非理解してから、その決断をしてほしいと切に思う。

そして自分の子供や未来の世代を是非巻き込まないよう、一人ひっそりと滝壺に沈んでほ

しい。

そういう意味での、つまり古いMBA式の「リーダーシップ」などではなく、本当の意味での、これからの時代に万人が必要とされる「リーダーシップ」をお話するのがこのセミナーの主眼である。

使える生理学・栄養学・生化学

なんだかいかめしい名前が並んでいるけれど、話したいことはごく単純で、「今、自分の体内では何が起きているのか」を理解できるようになる、ということだ。

ご飯を食べた、セミナーを受けた、睡眠不足になった、おやつを食べた、運動をした、嫌いな人に会った、チンピラに絡まれた、100円拾った、なんでもいいのだが、常に我々はミクロなレベルでは明確に「変化」している。

その変化を扱うのがこれらの学問なのだけど、つまるところ、我々が何かをしたときに、それが体内でどういう変化を起こしているのか、そしてそれが肉体的にはどういう影響となって表れてくるのか、精神的にはどういう影響となって表れてくるのか、そういうことを調べているわけである。

「私はマクロビやってるから大丈夫です」などとドヤ顔で言っちゃう超が付くほどのバカは決して来てはいけないこのセミナーでは、生理学などの基本的な概念を用いながら、肉体と精神のパフォーマンスを常に高いレベルに保つ秘訣をお話したい。

「健康第一」は単なるスローガンなどではなく、明確な意思のもと、成功し幸福な人生を送るために実現されるべきことなのだから。

使える食事法

なぜ「食事」なのかと思う人がほとんどだと思うけれども、日ごろ何を食べているかは、その人の成功に相関関係があることはいくつかの研究で示されている。

大体ちょっと考えてみれば、人間食べたものと飲んだもので作られているわけだから、マクドナルドとコンビニ弁当とインスタント食品で生活している人が、それら以上の人間になれるはずはない。

ただ残念なことに、巷の本や健康法が盛んに宣伝するように「万人に体にいいミラクルな食べ物」とか「誰もが食べてはいけない体に悪い食べ物」とかは存在せず、あるのはただ「食べ物とその人との相性」だけである。

つまり、僕にとって体にいいものと、Aさんにとって体にいいものは全く異なっている可能性がある、ということだ。

子供と大人とでも必要な食べ物は全く異なる。

「うちの子は人参が嫌いで」「ホウレンソウをどうしても食べなくて」「ピーマンとトマトが嫌いで」「牛乳を飲まなくて」などなど子供を育てている方は大体似たような好き嫌いの悩みを抱えているが、「本当に」子供に食べさせなければいけない食べ物を知っている人は、おそらくほぼいないと考えられる。

なぜなら、誰もそんなこと教えてくれないし、もっとはっきり言えば、「栄養士」や「管理栄養士」、「調理師」などの資格を持つ人でそんなことを知っている人はいないからだ。

ハッピーセットにつられて小さい子供にマクドナルドを食べさせ、その時は楽しくてしかも食事を作らなくてよい分楽ちんかもしれないが、「舌による洗脳」を後悔するのは20年後である。

「知らなかったんです、誰も教えてくれなかったんです」

で済んでしまうからもっと恐ろしい。

つまるところ、最終的には「自分にとってはこれが体にいい」「この子にとってはこれが体

にいい」ということを自分でわからなければいけない。

このセミナーでは、そのために必要となる知識や考え方をお話しし、実際に「使って」いくためのヒントを提供したいと思う。

使えるファッション

僕は決して「お洒落」ではないと思うしましてや「洒落者」では全くないと思うが、それでもファッションについて一家言はあって、非常に「保守的」な意味でいろいろと伝えておきたいことがある。

グローバル化が進んできたとき、ファッション（＝見た目）というのは当然重視されることになる。

欧米というのはそういう社会なのだから、当然だ。

「ファッションとはお洒落ではなく、周りに対するマナーである」

というのがワールドスタンダードであるが、ではどういう意味でのマナーなのか？

こういう「至極当たり前」のことが、我々日本人は、特に日本人の男は理解ができず、痛々しい身なりをしていることが多い（皮肉なことに、「あの人はお洒落だから」と言われている人ほど痛々しさは増していく傾向にある）。

サラリーマンの90%はそもそもスーツのサイズがあっていないし、スーツに白いソックスを合わせていたりするのも最高に痛いし、逆に上から下までモードのブランド服でガチガチに固めているのもほとんどの場合目も当てられないほど痛い。

他にも「痛々しいファッション大百科」を作れるくらい、街を歩けば痛いファッションが山ほど歩いている。

どうしてこういう途方もない「痛さ」ばかりが現実化してしまうのか、ナポレオンヒルも教えてくれない。

こんな人生で大切なことを、ディズニーもリッツカールトンもちっとも教えてくれなかった。

このセミナーでは、僕自身の実際の経験も踏まえて、お洒落になるというよりも世界のVIPから最低限認められる「ファッションという考え方」の枠組みを提示したいと思う。

ファッションに限らず、「本当に良いものとはなんなのか」「本当に自分の魅力を何倍にもしてくれるものはなんなのか」「本当に人生を豊かにしてくれるものはなんなのか」を見抜く指針にもなるはずである。

使える読心術

プロファイリングとも被る部分があるが、僕は結構、人を見ただけでその人の悩みとか、好みとかが分かったりする。

それは職業病かとも思っていたが、実はそうでもなく、大部分は学問的にも裏付けられた知識を無意識に習得し、使っていたのだということが最近分かってきた。

人の心を読むのは、もしくは人の性格を見ただけから理解するのは、ある程度までは簡単である。

こういうものは、対人コミュニケーションにおいて非常に有益に作用することは何となく理解できると思うが、初対面でまるで探偵か何かのようにじろじろと舐め回すように見ていたらただの変質者だ。

このセミナーでは、ある程度の正確さは犠牲にしながら、ぱっと見てぱっとわかる、というレベルの「(変質者にみられず) 使える」技術の習得を目指したいと思う。

使える子育て

本当の意味での天才を作りましょう。

これに関して僕が言いたいのはこれだけである。

作られたものはもはや天才ではないのではないか、という疑問がある人もいるだろうが、この際言葉はなんだっていい。

重要なのは、僕が何度も言っている「どんな時代でも、どんな状況でも自分の頭で乗り切れる人」を育てるという視点である。

子供時代は特に重要で、育て方を誤れば地頭が育たない。

育たなかった頭では、変化の速い時代を生き抜けない、つまり対応できない可能性が出てくる。

かと言って頭ばかり鍛えていては、バランスの悪い人になるかもしれない。

いろいろ学んでいると、何となく見えてくるものがあって、人間の脳の発達とか、心の発達とか、身体の発達との関連とか、そういうものを最新の教育理論と統合して、いくつものケーススタディと照らし合わせて、そうして得られる結論というのは実はある程度ひとつに決まってくるものなのである。

「絶対天才になりますよ」などということは口が裂けても言えないが、何らかの指針にはなると確信する。

使えるステージ理論

マスタークラス受講者の方から希望をもらったテーマだが、ステージ理論とは僕の（彼の？）造語で、これが分かると

「運がいい人と悪い人の違い」

「引き寄せの法則の本当の意味」
「人脈を効率よく築き上げる方法」
「思考が現実化する条件」

などなどがもれなく理屈として理解できるようになり、実際に「使える」ようになる。

誤解されがちな概念なのであんまり広く話したい話ではないが、一応希望が出ているので書いてはおく（もしかしたら、**Exclusive** な形で話すかもしれない）。

・・・とこれ以上はキリがないのでやめるが、他にも使える（比較）言語学とか使えるカバラとか使える断捨離とか使えるお金の仕組みとか使える歴史学とか使える地政学とか使えるグローバリズムとかいくらかでも話したいことはある。

その都度世界の状況を見て、受講生の状況を見て、フィードバックを受けながらテーマを決めていければと思う。

ではでは、紹介はこの辺で。

またセミナーでお会いできればと思います。

受講申し込みは

<https://55auto.biz/alchemy/touroku/t4fu.htm>

からお願いします。

ありがとうございました！

木坂